

SCの安全安心を地域と次世代に届ける(再認証を顧みて)  
～自治会単位のきめ細かいSC安全安心活動等～



向山 静雄  
箕輪町 SC 推進協議会アドバイザー、長野県警察・心の伝承官  
日本市民安全学会会員

1 再認証を終えて

(1)経過

- 箕輪町 SC は、取組みから「地域の絆、協働、継続」をキーワードとして平成 24 年初認証、平成 29 年再認証となりました。再認証に向けては意識高揚・取組み拡大のため
- ・平成 26 年認証取得日を「箕輪町安全安心の日」と宣言、毎年安全安心の日の集い開催
  - ・平成 27 年共通共感テーマ「あいさつで広げよう地域の絆」設定、活動推進補助金制度創設
  - ・平成 28 年度箕輪町第 5 次振興計画・箕輪チャレンジに「世界に誇るセーフコミュニティのまち、安全安心チャレンジ」設定(17 チャレンジ)
- 等を展開し、再認証には地区の取組みが大きく評価されました。

(2)再認証に係る課題

- ・「見える化」、若年層の無関心対策(27 年アンケート認知度 48.4% 関心度 58.3%)
- ・国際認証の必要性和費用対効果⇒費用の削減と認証式典の簡素化

2 箕輪町の地域活動

(1)現状

全町展開方針と支援の年 20 万円累計 100 万円の推進補助金制度等により、15 自治会中 6 自治会に推進協議会設置、3 地区をモデル地区、連絡会設置。(地域特性・主体性から町事業の推進モデルではなく、町と連携して地区独自の事業推進のモデル地区)

(2)課題

- ・人口の多い地区に未設置⇒何が課題かを把握する委員会からと助言
- ・自治会長(区長)の考えにより取組みが大きく左右される。自治会長任期は 1 年。  
(地区 SC 会長は、区長 2、区長又は区長経験者 1、区長委嘱 2、互選で区長 1)

3 住民主導のあり方についての思考

(1)行政と住民サイドの観点の違い

行政⇒使命感

住民⇒常に安全安心を考える環境になし⇒必要な時、できることから

(2)環境

地震・洪水等の頻発の他、ごく身近な安全安心への脅威があり、継続取組みは必要

(3)あり方

行政⇒情報提供と財政的支援を主眼に

住民⇒安全安心の取組みが触れ合いの場になり存在感存在⇒住民リーダーの存在